

# インフラ構造物の3次元データを活用し、 維持管理を効率化するとともに、災害時の復旧を迅速化する

## 【対策】103 施工の効率化・省力化に資する対策

対策概要：ICTを活用し3Dデータを用いた施工管理を行うことで、建設現場の生産性の向上を図るとともに、施工管理の3Dデータを基礎データとし点検時や災害発生時に構造物の変状を迅速に把握することで、維持管理の効率化や災害復旧の迅速化を目指す。このために必要な橋梁や砂防施設等のコンクリート構造物工におけるICTの技術基準類を策定し、導入環境の整備を行う。

府省庁名：国土交通省

## 【事例】インフラ構造物の3次元データの活用

- 実施主体：国土交通省大臣官房参事官(イノベーション)グループ
- 実施場所：ー
- 事業概要：ICTを活用し3次元データを用いた施工管理を行うことで、建設現場の生産性の向上を図るとともに、施工管理時の3次元データを維持管理でも活用できることを目的に、構造物工におけるICT適用工種の拡大を推進している。例えば、護岸工においては、沈下状況などの形状変化(被災状況)の迅速な把握が可能となる。
- 事業費：ー  
(5か年加速化対策(加速化・深化分)5,998万円)
- 効果：点検時及び被災時において、構造物の変状を迅速に把握することで、**維持管理の効率化及び災害復旧の迅速化**を目指す。

## ○維持管理及び災害時における3次元データの活用

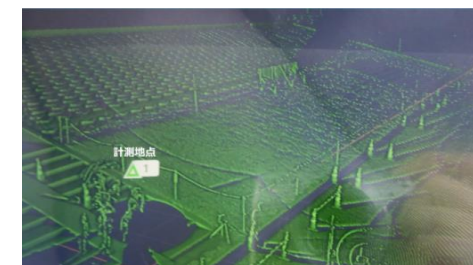
維持管理に必要なデータをICT技術を活用し取得。災害時等で取得したデータと比較して形状変化(被災状況)を把握

### ICT活用工事(護岸工)

3次元計測機器を活用した出来形管理

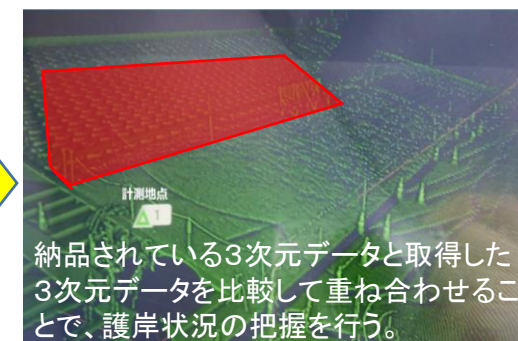
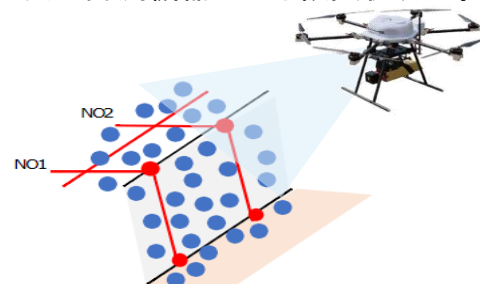


3次元データの納品



### 災害時

3次元計測機器による被災状況の把握



納品されている3次元データと取得した3次元データを比較して重ね合わせることで、護岸状況の把握を行う。